

## 環境との調和を目指して

### Seeking Greater Harmony with the Environment



取締役社長  
井上博司

20世紀における人類の限りない利便の追求は社会を発展させ、私達の生活を豊かにしてきました。しかしその一方で公害問題を引き起こし、我が国でも1970年代に社会問題化しました。

これらは地域限定的で因果関係も比較的特定しやすいものでしたが、1990年代に入ってから地球環境保全の課題がクローズアップされ、地球温暖化、酸性雨、オゾン層破壊、森林資源の枯渇、海洋汚染などの地球規模の環境問題が我々の目の前に現れています。1992年にブラジルのリオデジャネイロで開催された「環境と開発に関する国連会議」(地球サミット)では先進国および発展途上国から180カ国以上の参加のもと、「今後各国が、持続可能な開発という理念で地球環境を守る」ことが合意されたことは意義深いものです。最近では、1997年に京都で開催され、1998年アルゼンチンのブエノスアイレスで開催された地球温暖化防止に関する国際会議では、炭酸ガス等の温室効果ガスの排出数値目標が決められ具体的な行動計画が動き出しました。

私たちはエネルギー・資源に大きく依存する大量生産、大量消費、大量廃棄という経済社会システムを見直し、今後ますます環境と調和した企業活動を目指していかねばなりません。

さて、当社では早くから環境問題に着目、1992年2月に社長を委員長として省エネルギー、省資源、産業廃棄物削減、フロン対策、環境対応商品開発の各専門部会から構成された地球環境保全委員会を設置しました。

さらに翌年には、「地球環境ボランティアプラ

ン」を策定し、精力的に活動を拡大してきました。

一方、当社の主要商品である転がり軸受とステアリングシステムは、機能や、性能面から見てそれ自体が環境対応商品といえます。

ころがり軸受では、摩擦によるエネルギー損失を低減したLFT軸受等を開発し、また、ステアリングでは、現在主流の油圧式パワーステアリングの油圧ポンプを駆動するエンジンの負担を軽減して燃費を3%改善できる電動式パワーステアリングを世界で初めて開発・実用化しました。

1998年からは更に明確な環境方針を掲げ、ISO14001に準拠した環境管理システムを構築し、1999年5月には開発設計部門および国内全製造拠点に対し、ISO14001の認証を取得しました。

21世紀は環境の世紀であるとも言われています。地球全体を視野に入れ、後世に恵まれた自然を残すことが現代に生きる私たちに課せられた責務であります。当社としても技術開発の段階から省エネ、省資源、廃棄物などの環境負荷の軽減を配慮し、生産活動においても環境負荷物質の排出抑制に絶やまぬ努力をしております。もちろん技術で地球環境保全がすべて解決できるわけではありませんが、技術の開発と改善を通じて大きな貢献をすることができると確信いたします。

今後ともグローバル企業として光洋グループ各社が一体となって協力しあい、環境との調和を念頭に、絶えず環境管理のレベルの向上と、環境対応製品や技術の研究開発に努めていきたいと考えております。